

4. パイロット商品デザイン開発研究

豊田修身・小谷公人

1. 目 的

本研究は昭和48年にスタートしたもので、消費動向の変化と多様化、商品のライフサイクルの短縮化に対し、竹製品製造業界が即応した商品開発を進めるための先導的役割を果たし、デザイン試作した製品の早期商品化を図ることを目的に毎年実施しており、年毎にこの事業の役割は大きくなっている。

当初は個々の商品のデザイン提案が主であったが、近年は、商品開発のプロセス全体の提案を通して業界に商品開発力を高めてもらうことに重点を移し、本年は、特に製品のデザインのみでなく、商品価値をより高める“情報”からパッケージやディスプレイ等の“売り方のデザイン”まで含んで、トータルにデザイン提案を行った。

2. 内 容

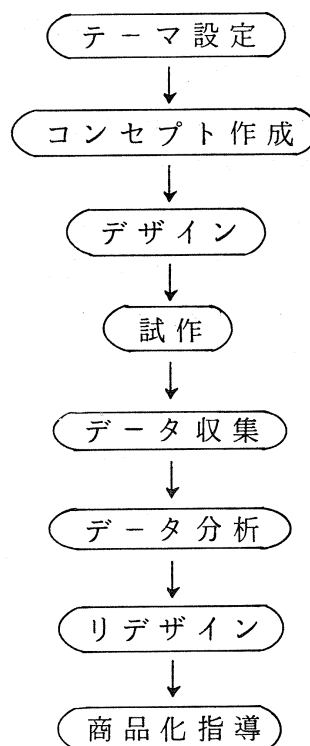
テーマに基づいてデザインしたものを一定数量試作し、業界と共に開催する展示会場において試験販売を行う。そして、売れ行きやアンケート等から反響を掴むと共に、流通関係者の意見等を参考にしてデータ分析を行い、リデザインをしながら技術指導を行って早期商品化に結びつける方法をとった。

流れ図に表すと次のようになる。

(1) テーマ設定

現在、モノそのものの価値よりも付加される価値の方に商品のセールスポイントが移っ

＜作業工程流れ図＞



て来ている場合が多い。しかし、これまで別府の竹製品製造業界では、プラスチック製品の出現や発展途上国から輸入品との競合に打ち勝つため、竹製品そのものの“価値を高める”ための技術やデザインには力を注いできたが、“価値を付加する”ことについては、他の工芸産業と比較して、大きく遅れをとっているのが現状である。

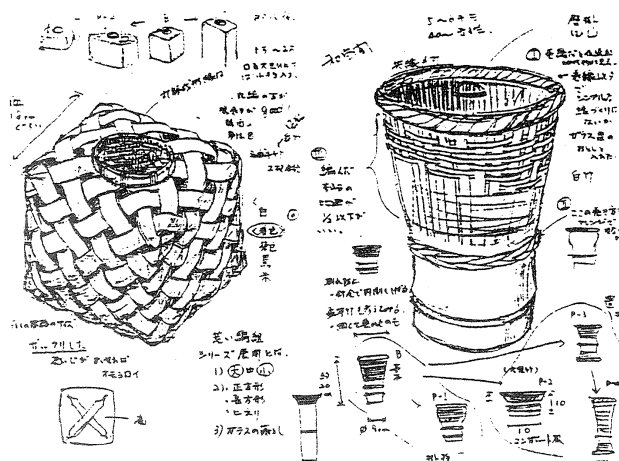
そこで、本年度は、別府竹製品の主力である花簾を取り上げ、新しい切口で商品開発をすると共に、その切り口の新しさを強調し、イメージを高めるため、ネーミング、ロゴタ

イブ、パッケージ、イメージポスター、タッグ等の他、売り場でのディスプレイを含めたトータルなデザイン展開を試みた。

商品開発の切り口の決定にあたっては、別府の竹製品のイメージマップをまとめ、これからの商品開発としてどのエリアを狙っていくべきかを詰めて、テーマ及びデザインを決定していった。イメージマップは縦軸をモダンとクラシックに分け、横軸はアーバン（都会的）とナチュラルに分けて現商品をプロットしていった。その結果、別府竹製品がアーバンでモダンな商品分野に弱いことがわかり、消費者に最も求められているこのエリアを切り口にして、テーマを“アーバンでモダンなティストの花籠の開発”とした。

(2) デザイン・試作

デザインは2種類の趣の異なる花籠を提案した。(図1)



＜提案A＞

＜提案B＞

図1. イメージスケッチ

提案(A)は、30歳代の若い層をターゲットに、洋花が似合い、しゃれたギフトにもなる“キューポット”というネーミングの花籠。竹の表皮の部分剥ぎ落とした“身竹”を用いて、オーソドックスだが、モダンな感覚の四つ目編みで編み上げた。

白竹のものは身竹の軽い感覚を生かし、黒く染めた籠は身竹の染着性の良さを生かして色を強調した。

提案(B)は、パターン化された従来の花籠にはない新しい感覚のもので、かつ、品位の高いものを望む層を対象にデザインした“華笠”。丸竹そのものを割り込み、縦ヒゴにして編み込んでいく技法を用い、素材感をストレートに表現しながらも上品な仕上げを試みた。

それぞれの作品と具体的なデザインは次頁のとおりである。

3. 調 査

試作品は、業界の3協同組合（別府竹製品協同組合、別府クラフト協同組合、別府つげ加工業協同組合）が岩手県盛岡市の『かわとく壺番館』ギャラリーにおいて“大分一村一品工芸展”という名称で展示会を開催したので、本研究の試験販売会場として適当であり、相乗効果も期待されることから、会場内でのアンケート調査、消費者からの直接の意見や流通関係者からの意見等を収集し、反響を調査した(写真1)。展示、調査については以下のようなことをポイントに行った。(会期は平成2年7月20日～31日までの12日間)

・展示にあたっては、今回の研究の一つである売り方のデザインを提案するため、イメージポスターを張り、ディスプレイもデ

ザインに基づいて行い、“商品そのもの+（プラス）商品のイメージを高める展示”にした。

- 具体的にはディスプレイでは、透明アクリル板で展示台を作り、エスニック調の布でおおって、その上に作品を展示し、試作品のシャープさを引き立たせるようにした。
- パイロット商品の展示コーナーの横にアンケートコーナーを設け、別紙アンケート調査を行った。



写真1. パイロット商品展示コーナー

4. 結 果

試験販売の結果から見ると、購入対象としては“華笥”の方が魅力があるようだった。“キューポット”は新しい提案としては幅広い層に好評であったが、逆に売れ行きはあまり良くなかった。

アンケートの結果からは生活者のいけ花や花籠に対する考え方がそれぞれの質問から見えてきた。回答数は116で40～60代の女性が多かった。集計結果は下記のとおり。

- 花を生ける場所は玄関が圧倒的に多く、居間、床の間の順になっており、花を生け

るのは、接客や団欒の場といったいわゆるコミュニケーションのスペースに多いことがわかる。

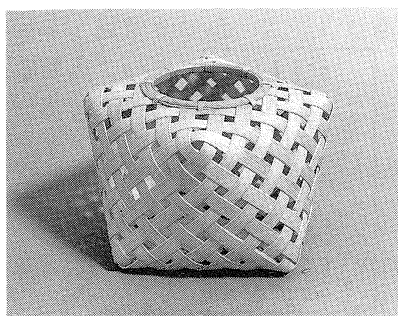
- 生活や住宅の洋風化が進んだとはいえ、日本人の多くは和花を好むこともわかる。
- 花籠は8割以上の人を持っていると答えている。しかし、素材が竹以外のものの可能性が高く、それを問う質問も必要だったと考えている。
- 花籠は伝統的な和の住空間に置く人の割合が高く、贈り物にするとしても伝統的な形態のものを選ぶようである。今回のキューポットのようなモダンな雰囲気のもの若い層では選ぶ比率が高いが、全体としては少数派である。

5. 考 察

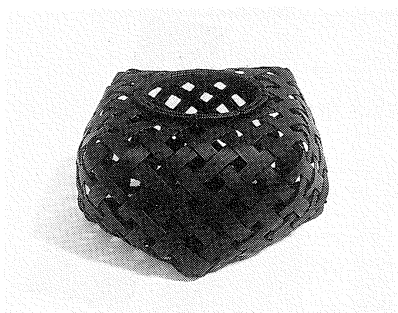
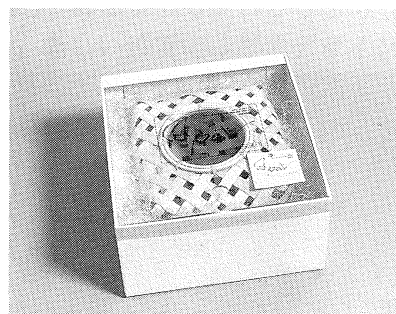
既成の流通に頼っていて、売り方のデザインを考えるとといったようなことの少ない竹製品製造業界もこうしたトータルなデザイン提案に関心を持ったようで、この考え方を参考に新たな模索を始めている企業もある。

今後は、アンケートの自由意見欄でのギフトに対する意見（家で使うのは明るい感じのもので、贈り物には重厚なものを求めがちです。）等を参考にギフト商品としての追求も考えていきたい。

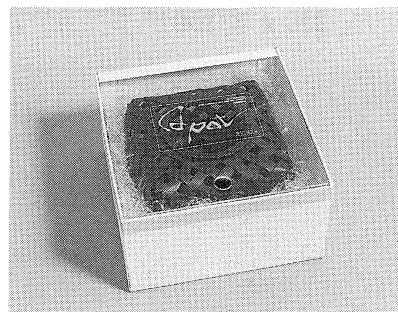
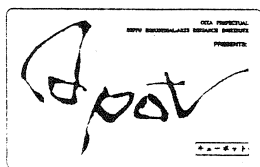
花籠 “キューポット”



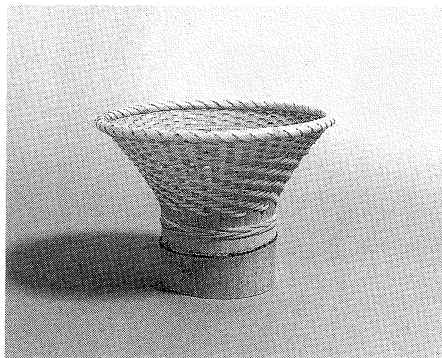
(230 × 230 × 145)



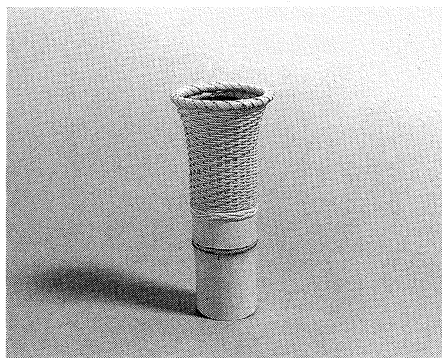
(230 × 230 × 110)



- 形 …… 幅広の身竹を四つ目に編み、ねじったキュービック状にしながらもシャープで幾何学的な形態。
- 色 …… シンプルでモダンに白と黒。
- ネーミング … キュービックフラワーポット（立方体の形をした花籠）を親しみやすく“キューポット”に。
- ロゴタイプ … パソコンを用い、型にはまらない字体でラフな雰囲気デザイン。
- パッケージ … 透明アクリル板を使い、優しくパッケージされたが中身が印刷されたロゴを通してみえるようなデザイン。
- イメージポスター … パソコンでハイタッチに。
- ディスプレイ … 製品のシャープさをより強調するために、暖かみのある布に包み込むように演出。

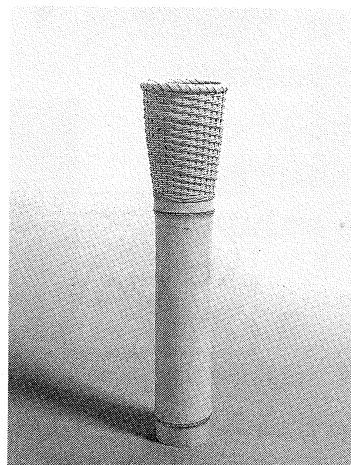
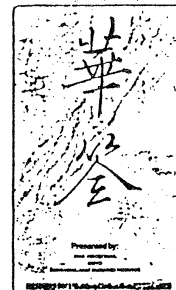


210 φ × 150

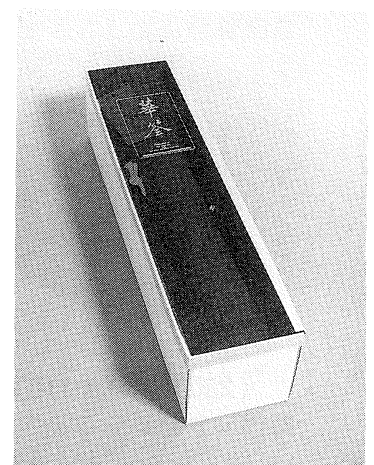


65 φ × 150

花籠“華笠”



125 φ × 520



- 形 …… 丸竹の節を自然に残しながらも、手の技をさりげなくくわえたシンプルなデザイン。
- ネーミング … イメージラインとなった茶笠と、品のある花籠をイメージさせる華とで“華笠”
- ロゴタイプ … 漢字を細身の筆による行書で表現。
- ディスプレイ … スモークブラウンの亚克力板を使い、製品のシルエットが微かに見える位の、落ち着いたデザインに。

花籠に関するアンケート

生活様式やインテリア空間の大きな変化に伴って、花籠に求められるものも変わりつつあります。試験所では、こうした新しい生活者の要求に応えるため、新しい感覚の花籠のデザインを試みています。

皆さんのご意見を参考にしたいと思いますので、ご協力をお願いします。

質問(1) …… まず、年齢と性別をお願いします。

年 齢	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 ～
性 別	男	女				

質問(2) …… 家の中で、よくお花をいけるところはどこですか。いくつでも結構です。

1.	2.
3.	4.

質問(3) …… 家でよくいけられる花を、『和花』と『洋花』とに分けるとしたらどちらが多いですか。

和 花	洋 花
-----	-----

質問(4) …… 花籠をお持ちですか。

は い	い い え
-----	-------

…… 『はい』とお答えの方は、それをどこに主に使われていますか。

--

質問(5) …… 花籠を贈物にするとしたら『伝統的な色、形』のものにしますか、それともモダンな雰囲気のものにしますか。

伝 統 的 な も の	モ ダ ン な も の
-------------	-------------

質問(6) …… この試作品は、贈物にも合うようにと、ネーミングやパッケージ等もデザインしました。印象や、こんなふうにしたらいのになというようなど意見があればお聞かせ下さい。

--

ご協力ありがとうございました。粗品をお受け取り下さい。

大分県別府産業工芸試験所